

高知県遺族会

遺族大会に初めて出席して

本山町 吉川 裕三

7月16日、日曜日、海の日の三連休の中日に高知県護国神社のすぐ近くのドリーマーベイシャトーで高知県遺族会遺族大会が開催されました。

まず始めに遺族会との関わりについてお話ししたいと思います。

私の祖父は、昭和17年11月に東部ニューギニアで戦死したと聞いています。最初は、祖母が英霊の妻として遺族会、ニューギニア会に参加していました。祖母が亡くなると父が遺族会、ニューギニア会に参加していました。

私自身は、4年前にUターンで帰高しました。しばらくして、父と四国遍路に一緒に行くようになったと言っても車遍路の運転手として一緒に行ったのですが、その道中で、祖父の出征前は、大豊町の落合という集落に住んでいたという話や、出征前に父は祖父の背に、叔父は祖母の

背に背負われて祖母の実家に向かい、途中土讃線の線路が土砂崩れで迂回した話等を伺いました。

そして、迎えに来るまで、私から見ると曾祖父の家で待つように言われたまま、本山町の曾祖父の家近くに住居を構え、今に至ります。

先の大戦の遺族の数だけそれぞれの物語があると思います。

遺族会活動についても祖母と一緒に土電のバスに乗って護国神社に何度か訪れた遠い記憶があります。

そして父からも子の世代が高齢になる中で、孫・曾孫が遺族会活動を引き継がないければならないが引き継ぐ意思があるのかと問われたことがあります。

父亡き後、微力ではありますが、祖母・父の思いを引き継ぎたいと思い、今回遺族大会に参加させて頂きました。

戦死された方の思い出や人柄を次の世代に引き継ぎ、戦争を風化させないということは、どのご家庭、どの遺族の方でもできることだと思います。

終戦の日に併せて高知新聞に連載された「戦争をどう伝えるか」の特集の中の、

特に8月16日紙面に連載された「孫の世代に記憶託す」に現在の高知県遺族会の在り方そして未来像についても記載されています。

その中で、遺族大会でも報告していただいたフィリピンへの慰霊訪問話も載っていました。

当初慰霊訪問団の人数が集まらず苦勞をされたこと等があったこと。しかし、それ以上にフィリピン戦線での戦死者は約51万8千人でどの戦場よりも多く、その戦死者の多くが敵と飢えとマラリア等の病との戦いで倒れていったことを考えると、遺族大会でのフィリピン慰霊訪問団の報告は、詳細で良い報告であったと思います。

最後に遺族の数だけ物語がある、戦死された方の思い出や人柄を次の世代に引き継ぐということを始めてください。

それが戦争の記憶を風化させないということに繋がることだと思います。